

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 12 日現在

機関番号：32611

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 22 年度～平成 24 年度

課題番号：22520629

研究課題名（和文）L2 学習者のリーディングモチベーション研究と読解指導モデル（認知・情意面）の構築

研究課題名（英文）Study of L2 Learners' motivation for reading and designing reading instruction which enhances L2 reading motivation

研究代表者

林 千代 (Hayashi Chiyo)

研究者番号：22520629

研究成果の概要（和文）：本研究の第一の目的は、L2 学習者の L2 リーディングに対するモチベーションをアンケート調査・分析し、その結果に基づいて、リーディング・モチベーション (RM) を高める L2 読解指導法を考案することである。第二の目的は、L1 における RM 研究を調査し、L1 リーディングの研究結果をどのように L2 リーディングに取り入れるかを研究することである。本研究の結果、以下のことが明らかになった。(1) L2 学習者の L2RM は、複数の要因(L2 リーディングに対する内発的動機、自信、価値感、外発的動機など)から成り立っていることが明らかになった。(2) L1 における RM を高めることを目的とした L1 リーディング指導を研究・視察し、Concept Oriented Reading Instruction(認知的な面と情意的な面を系統的に組み込んだリーディング指導法)が L2 リーディングに多くの示唆をもたらすことがわかった。3) 研究代表者の行ったリーディング指導の実践から、絵本を用いた L2 リーディング指導が L2 学習者の RM を高めるために効果的であることも明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The present study aims at investigating the constituents of L2 reading motivation and developing an effective reading intervention which enhances L2 learners' motivation for L2 reading. Another aim is to investigate how to incorporate L1 reading motivation research into L2 contexts. The findings of the study are as follows: (1) L2 learners' motivation for reading consists of multi-dimensional factors, such as intrinsic motivation for L2 reading, L2 reading self-confidence, value, and instrumental orientation; (2) Concept Oriented Reading Instruction (CORI), an L1 reading intervention, which aims at enhancing reading motivation, is highly adaptable for L2 reading instruction; and (3) the reading intervention using picture books was effective in fostering L2 college learner' motivation for L2 reading.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：外国語教育

キーワード：英語教育一般 教授法・カリキュラム論

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

(1)L1 リーディング・モチベーション研究

近年のアメリカにおける L1 読解研究では、期待・価値理論(Expectancy-Value Theory)、自己決定理論(Self Determination Theory)などの教育心理学の理論に基づいたリーディング・モチベーションの研究が幅広く行われており、読み手の認知的な側面(Cognitive variables)に加えて、情意面(Motivational variables)も読解のプロセスに重要な役割を果たすことが実証されている(Wigfield & Guthrie, 1997)。この研究の第一人者であるメアリーランド大学の Wigfield と Guthrie によると、リーディング・モチベーションは内発的・外発的モチベーション(intrinsic/extrinsic motivation)、自己効力感(self efficacy)、達成目標(mastery goal)などから成り立ち、これらが単独にまたは有機的に組み合わさって、読書行動に影響を与えているとされている。さらに、リーディング・モチベーションと読解力には、優位な相関があり、特に、内発的モチベーションが高く、自己有効感が高い読み手は、読む量が多くなる傾向があり、その読む量に比例して、読解力が高くなることが実証されている(Baker & Wigfield, 1999)。

(2)L1 読解指導法: Concept Oriented Reading Instruction (CORI)

上述の研究成果に基づいて、学習者のリーディングに対するモチベーションを高めること及び従来のリーディング・ストラテジーなどの認知的な面に焦点を当てた読解指導法、Concept Oriented Reading Instruction(以下 CORI)が提案された(Guthrie & Wigfield, 2000)。CORI はモチベーション(Motivation)、ストラテジー(Stratgy Use)、社会的なインタラクション(Social interactions)、概念的な知識(Conceptual Knowledge)などのサポートを読解の指導に織り込んだ統合的なプログラムである。このプログラムは、1996年にアメリカの小学校で導入されてから、大きな成果をあげており、2005年からは、アメリカ全土で問題となっている中・高生の読書離れの対策として、十代の若者(Adolescents)を対象とした研究へと発展している。

(3)L2 リーディング・モチベーション(RM)研究

日本人大学生を対象にしたリーディング・モチベーション(以下 RM)研究を最初に行った

のは、森(2002)である。森は、L1 で用いられた「RM アンケート」(Guthrie & Wigfield, 1997)を基に質問紙を作成し、447名の女子大学生を対象にしたアンケート調査を行った。因子分析の結果、「内発的・外発的モチベーション」、「リーディングの重要性」、「自己有効感」などが L2 の RM 要因であると結論づけた。最近では、高瀬(2007)が高校生を対象に同様な研究を行なった。しかし、未だに L2 学習者の RM に関する研究は少なく、L2 学習者の RM にはどのような要因があり、それがどのように個々に、または有機的に合わさって、L2 学習者の「読む」という行為に影響を及ぼしているかはほとんど解明されていない。また、日本人大学生の英語習熟度・専攻・性別による調査はいまだかつて行われていない。L1 学習者と同様に、L2 学習者の RM は非常に重要な役割を果たしていることが予測できる。また、L1 学習者に比べて、L2 学習者の言語的・文化的な知識の欠如を考慮に入れると、RM の構成要素は L1 学習者とは、かなり異なっていることも想像できる。L2 リーディング研究の第一人者である Grabe は、繰り返し、L2 学習者の RM の研究を進めることが、今後の L2 リーディング研究の最重要な課題であると指摘している(Grabe, 2004, 2007, 2009)。

2. 研究の目的

本研究の目的は、L1 における研究成果・指導実践を踏まえて、L2 学習者の「L2 リーディング・モチベーション」と「読解力」の関係を研究し、その結果に基づいて、認知面と情意面サポートを組み込んだ「L2 読解指導法のモデル」を構築することである。本研究は、日本人大学生を対象として行い、第一に、日本人大学生のリーディング・モチベーションの構成要因を調査し、これらの要因と読解力との関係および L1 リーディング・モチベーションとの違いを明らかにする。第二に、L1 リーディング指導において、L1 リーディング・モチベーションを高める実践がどのように行われているか調査することである。第三に、リーディング・モチベーションと読解力を高めることを目的とした読解指導を行い、その効果について検証する。最終的には、本研究の成果に基づいて、認知面と情意面の双方を統合した形で織り込んだ「L2 学習者のための読解指導法モデル」を構築し

て、包括的な L2 学習者の読解指導法の確立を目指す。

3. 研究の方法

本研究は、平成 22 年から 24 年の間に、以下にあげる 4 つの方法を用いて、研究を進めた。

(1) 【質問紙によるアンケート調査】日本人大学生の L2 リーディング・モチベーション(以下 RM) の構成要因を解明するために、質問紙を用いたアンケート調査を行った。同時に、読解テストを行い、読解力と L2RM の関係も調べた。アンケートとテスト結果は、統計的な分析を行い、L2RM を構成する要因と読解力のモデルを構築する。このアンケートとテストは、林が 3 回の予備調査(2007、2008、2009)を行い、作成された。

(2) 【L1 における RM 研究・実態調査】L1 における RM 研究の本拠地であるアメリカで 2 回にわたって実地視察を行った。①平成 22 年度は、ユタ州ソルトレーク市にあるユタ大学とヒルサイド・ミドルスクールにおける CORI 授業の視察と研究者(Dr. Emily Swan) と打ち合わせを行った。②平成 23 年度は、メアリーランド州にあるジョージメイソン大学とカトリック大学における CORI 指導者育成プログラムに参加して、CORI の指導法を学んだ。CORI の研究者である Dr. Ana Taboada と Dr. Katherine Perencevich との打ち合わせも行った。

(3) 【授業実践】(1)の研究成果に基づいて、RM と読解力を高めるための読解授業実践を大学生を対象に行った。

(4) 【研究成果の発表及び論文執筆】研究調査の成果を海外および国内の学会で発表を行い、その後論文として表した。また、最終年度には、3 年間の研究成果をまとめた「科研費報告書」(122 ページ)を作成し、所属学会(JACET)、研究代表者と分担者所属大学、L2 リーディング研究者に配布した。

4. 研究成果

本研究の成果は以下のとおりである。

(1) L2 学習者のリーディング・モチベーションアンケート調査：現在、アンケート結果は分析の途中であるが、統計的な分析の結果、以下のことが明らかになった。①L2RM は複数の構成要素から成り立っている (L2 intrinsic motivation、importance of L2 reading、L2 reading confidence、instrumental orientation、recognition、compliance)。②男性と女性の L2RM を比べると、女性のほうが L2 intrinsic motivation が高い傾向にある。③英語の熟達度別では、熟達度が高い学習者のほうが、L2 intrinsic

motivation および L2 reading confidence が高い傾向がある。

(2) Concept Oriented Reading Instruction 研究：3 年間にわたる CORI の文献研究及び授業視察の結果、CORI の特徴の多くが L2 リーディングにも適用できることが明らかになった。特に、モチベーションを高めるための教材選び、リーディング・ストラテジー指導、共同学習などを統合した認知面と情意面双方を重んじた指導方法は、L2 リーディングにふさわしいと言える。

(3) L2RM を高めるための授業実践：CORI から学んだ示唆を踏まえて、L2RM を高めることを目的とした授業実践を行った。授業をデザインするにあたって考慮したのは、理解できるインプット、面白い内容、共同学習などである。熟達度が低い学習者を対象とした授業では、絵本を教材として用いたが、この実践は大変効果があり、多くの学習者が英語で本を読むことに対する興味が高まった報告していた。

4. 今後について

三年間にわたる研究の結果、L2 学習者のリーディング・モチベーション及び効果的な L2 リーディング指導法について多くの示唆を得ることができた。L2 学習者のリーディング・モチベーションアンケートは現在分析中であるが、今後の研究は以下のように進めたいと考えている。

(1) アンケート調査の統計的分析と論文執筆：現在、アンケートの結果は因子分析と項目応用分析(Rasch)を用いた分析が終了している。今後は共分散構造分析(Structural Equation Modeling)などの統計的手法を用いて、L2 学習者の RM の構成要素と読解力(性別・熟達度別)の関係を明らかにしていく。

(2) Concept Oriented Reading Instruction の研究：CORI の研究を継続し、どのように CORI を L2 に導入するかを考案する。L1 リーディングと異なり、L2 リーディングには、未知の語彙、難解な文章構造など多くのハードルがあり、L2 熟達度が低い学生は挫折しがちである。この点からも、認知面に情意面のサポートを織り込んだ CORI の指導法は、L2 学習者にふさわしいと言える。CORI の特徴は、EAP(English for Academic Purposes)のカリキュラムデザインにも役に立つと思われる。

また、CORI は第一言語を対象としたアプローチなので、日本の教育機関、特に小学校や中学校における理科・社会・国語などの授業科目や読書指導にも大いに役に立つと思われる。国語・読書関係の学会でも CORI に関する学会発表を行いたい。

(3) L2RM を高める授業実践の研究：本研究を行うプロセスにおいて、一番大きなイン

パクトがあったのは、絵本を使った授業実践である。絵本を使ったリーディング活動には劇的な効果があり、英語が苦手な学生でも、L2RMは授業内でのリーディング活動の影響で大きく向上するということが実証された。つまり、理解できるインプット、興味深く共感を呼ぶ内容、仲間と読後感を共有する機会、わからないところは自由に質問できる環境があれば、英語を読むことが楽しいと感じ、もっと英語の本が読みたいと思うように変わっていくということであろう。今後、学習者のリーディングに対する内発的モチベーションを高め、自発的に「英語を読むのが楽しい、面白い」、「もっと英語が読みたい」と思える、その結果として読書量が増え、読解力も高まるL2リーディングの授業モデルを構築したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ①Hayashi, C. (2011). Extensive reading and intrinsic motivation for reading. *The Journal of Engaged Pedagogy*, 10, 44-55. (査読有)
- ②林千代、L2読解指導のための統合的なアプローチ、国立音楽大学研究紀要、46巻、2012、pp. 107-114
- ③林千代、英語を不得意とする学生のために絵本や児童文学を使ったリーディングの指導、高等教育における英語授業の研究、査読有、 pp. 55-56
- ④Hayashi, C., Iijima, Y., Ohata, K., & Watanabe-Kim, I. (2012). Insight into L2 reading from Concept-Oriented Reading Instruction (CORI). *The JACET International Convention Proceedings—The JACET 51st International Convention*, 87-90.
- ⑤Hayashi, C. (2013). Children's literature for adult L2 learners、国立音楽大学研究紀要』、47巻、pp. 107-116
- ⑥林千代、渡邊(金)泉、飯島優雅、大畑甲太、藤井彰子、L2学習者のリーディングモチベーション研究と読解モデル(認知・情意面)の構築、科学研究費補助金成果報告書、2013、pp. 1-122

[学会発表] (計 6 件)

- ①Hayashi, C. (2011, August). *Extensive reading: Effects of different types of reading materials and styles on motivation*. Paper presented at JASELE, Suita, Osaka.
- ②Hayashi, C. (2012, August). *L2 learners' motivation for reading: Domain Specific*

approach. Paper presented at AILA, Peking, China.

- ③Hayashi, C. (2012, August). *L2 learners' motivation for reading and its relationship with reading achievement*. Paper presented at JACET, Fukuoka, Fukuoka.
- ④Hayashi, C., Iijima, Y., Ohata, K., & Watanabe-Kim, I. (2012, November). *An integrated reading instruction for L2 reading*. Paper presented at JALT, Yoyogi, Tokyo.
- ⑤Hayashi, C. (2012, August). *Children's literature in L2 classrooms*. Paper presented at JASELE, Nagoya, Aichi.
- ⑥Hayashi, C., Iijima, Y., Ohata, K., & Watanabe-Kim, I. (2012, August). *Insights into L2 reading from Concept Oriented Reading Instruction*. Paper presented at JACET, Nagoya, Aichi.

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
林 千代 (HAYASHI CHIYO)
国立音楽大学・音楽学部・教授
研究者番号：30365522

(2) 研究分担者 (平成 22～23 年)

山崎 朝子 (YAMAZAKI ASAKO)
東京都市大学・環境情報学部・元教授
研究者番号：80298017

(3) 研究分担者

渡邊 (金) 泉 (WATANABE-KIM IZUMI)
国際基督教大学・教養学部・講師
研究者番号：40365523

(4) 研究分担者

飯島 優雅 (IIJIMA YUKA)
獨協大学・経済学部・准教授
研究者番号：50337838

(5) 研究分担者

フェリス女学院大学・文学部・准教授
大畑 甲太 (OHATA KOTA)
研究者番号：00407181

(6) 研究分担者 (平成 24 年)

藤井 彰子 (FUJII AKIKO)
聖心女子大学・英文学科・講師
研究者番号：60365517